

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702677		
法人名	有限会社福の里		
事業所名	福の里 グループホーム結		
所在地	北九州市八幡西区楠橋上方2町目18-37		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果確定日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楠橋の静かな住宅街の一角に平屋建てで屋根には、太陽の日差しを感じる窓があり、明るい雰囲気である。庭には、畑があり畑仕事が好きの方が季節の野菜を作っている。利用者様と共に、作業の様子や成長を見て喜びを感じている。職員は、年齢層が幅広く20歳から77歳のスタッフが働いておりそれぞれの得意なところ、苦手なところをカバーし協力して認知症高齢者の生活の質を上げ楽しい生活ができるように、職員も楽しんで仕事をしている。理念に掲げているように「自由な生活の支援」を念頭に入れ、認知症高齢者の個々の性格やこれまでの生活やご家族様との関係等を把握し、今この方に何が必要でどうして欲しいのかを考え支援している。年間行事も季節を感じられるよう、スイカ割り・夏祭り・ぶどう狩り・花火大会・運動会・餅つき・バーベキュー・花見等、外出の機会も増やしています。近隣幼稚園の毎月の慰問や、お互いに行事ごとの時は、招待し子供たちと関わり、パワーを頂いています。常に利用者様を一番に考え、残された時間を大切にできるように生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護理念に「自由な生活の支援」掲げ、入居者との会話から思いを把握し、好きな場所に居られるように、やりたいことが実現できるように支援している。特に入居後1ヶ月間はケアマネージャーが密接に関わり、入居拒否や帰宅願望のある方も落ち着いた生活を送っている。オムツ使用で退院してきた入居者が、トイレ誘導でトレーニングパンツを使用するまでになったり、入浴拒否のある入居者の家族にも協力をお願いして入浴を支援するなど、随時介護計画を見直している。そして、自治会の花見の場所の提供や幼稚園児との交流が恒例となり、毎月野菜やパンの訪問販売、代表が作った唐揚げなどの購入に近所の人が訪れたり、代表者が近隣高齢者の買い物毎週支援するなど、地域の方々との交流が広がりを見せている。ホームの評判や入居者と職員の散歩の様子を見て、就労した近隣在住の職員や新規に入職する職員もあり、全職員が一丸となった支援で自由な暮らしの場で穏やかな生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **結・1**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに介護理念「自由な生活の支援」を掲げ職員全員が共有し、同じ思いで実践できるよう話している。	理念を実践するため、入居者との会話から思いを把握し、好きな場所に居られるように、やりたいことが実現できるよう支援している。職員は入居者から笑顔が帰って来ると自分も嬉しくなると励みにしている。	日々入居者の意向に沿ったケアが実践できているかを振り返るために、理念がより具体的で平易に表現できないかを話し合われることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や地域の清掃活動・盆踊り・文化祭などに参加し交流している。 又、自治区会に加入し会議にも参加している。 近隣の幼稚園とは、園児の成長が、分かるほど関わりがあり、毎月楽しい時間を過ごしている。	自治会の花見の場所の提供や幼稚園児との交流が恒例になっている。毎月野菜やパンの訪問販売、代表が作った唐揚げなどの購入に近所の方が訪れたり、代表者が近隣高齢者の買い物毎週支援するなどの積極的な関りで、地域の方々との交流が広がりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏祭りを行っている。(そうめん流し・たこ焼き・から揚げ・カレー・金魚すくい・綿菓子・カキ氷等)近所の方に、招待券を配布し遊びに来てもらい、認知症高齢者と共に夏祭りを楽しんでもらっている。毎月から揚げや野菜・パン屋さんが来所され近所の方へ販売している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、事業所の報告は勿論民生委員の方やご家族の意見や質問提案等あり参考や改善につなげている。	2か月毎に自治会、包括支援センター職員、民生委員、家族代表等の参加で開催され、会議録を整備している。家族には、「福の里だより」で会議の内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、必ず包括支援センターの方や民生委員の方が、出席されており情報交換はできている。	毎月一回空室情報を提供している。地域包括支援センターより、感染症対策等の情報提供がある。予防に取り組み、ここ数年インフルエンザやノロウイルス等の感染はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中施錠せず解放している。利用者様は、危険の無いよう自由にしてもらい見守りを行っている。 日常の声掛けの中に、拘束に近い言葉などがあればその都度、注意し合っている。会議やカンファレンスの中でも、拘束について話して周知している。	防犯カメラが玄関に設置されているが、日中は4か所の出入り口は施錠していない。現在外出傾向の入居者はいない。拘束につながる言葉遣いについて全職員で意見交換して、具体的な行為についても理解するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞で取り上げられることが増え自分たちに置き換え、考えることが増えてきた。利用者様の小さな傷や皮下出血を見逃さず記録に残している。		

福岡県 福の里 グループホーム結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを設置している。現在利用者様で成年後見制度を利用している方が入居されている。 昨年入居の方で、御家族間でトラブルがあり金銭管理が困難な方へ利用を進め面談などに立ち会っている。入居相談時に必要性のある方には、説明を行いパンフレットを提供している。	成年後見制度の利用を継続している入居者もある。金銭管理ができない入居者もあり、日常生活自立支援事業の利用について、行政と協力して話し合いを進めている。管理者等は制度や事業を理解し、随時活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前訪問を行いホームの説明を行っている。契約書・重要事項の説明を行い、理解できないことを分かりやすく説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声掛けをして、意見・要望をお聞きしているが、言いにくいことは、意見箱を設置している。	家族から足取りが悪くなったので歩かせて下さいとの意見で、天気が良ければ戸外へ、ホーム内には廊下に歩行距離が分かる印を付けるなどの工夫で、入居者の下肢筋力の低下防止に取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表と面談する機会は多くあり意見・提案は言いやすい環境である。	代表者は毎日出勤して、入居者や職員に声かけをしている。職員の日々の気づきや意見から、介護しやすい動線の工夫をしている。研修や資格所得希望の休みなどに、配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職員一人一人の個性を大切に、適材適所を考え効率よく働けるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢は、関係なく思いやりがあり、楽しみながら仕事ができる人を採用している。 個々の家庭環境や性格を考慮し、配置している。 お互いの条件を歩み寄せ勤務時間や曜日の希望を聞いている。	常時ハローワークで募集している。年齢や資格、経験ではなく、入居者により添えるかを採用の基準としている。ホーム評判を聞いて無資格で入職した近隣在住の職員は初任者研修の受講後も就労中で、今春採用予定の新卒者も入居者と職員の散歩の様子を見て応募している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	現場で気付いたときは、その場で伝えている。 結会議の時にも、人権に関する話し合いもしている。	加入しているグループホーム協議会の人権教育講習を受け、講習内容を回覧している。 馴れ馴れしい言葉使いや強制に聞こえるアクセントに留意し、同じことを何度聞かれても穏やかに対応するなどの入居者の立場に立ったケアを提供できるように、日頃から話し合っている。	

福岡県 福の里 グループホーム結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの能力を把握し現場で教育している。新人には、グループホームとは、から認知症についてを教育している。GH協議会の研修には参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修などに参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて間もないときは、環境の変化に順応できず不安も多いので、慣れるまでの間、傍に寄り添う介護を心掛ける。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・事前訪問とご家族とも関わり、現在困っている事や要望を聴き取ることを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活状況を把握し、利用者様が求めている生活に近づけるよう提案し、支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションの中からも、昔ながらの知恵を教えてもらうことや生活の中で、洗濯や後片づけなどを共に行って、協力しながら生活している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は、日常の様子を報告します。日々の小さな変化も電話で報告している。家族とゆっくり過ごせるよう居室で面会していただく。		

福岡県 福の里 グループホーム結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に生活歴・生活・性格を把握し少しでも馴染みのある生活ができるよう情報収集して対応している。 年賀状や手紙などを出し、関係の継続の支援をしている。	近隣からの入居者もあるが、以前利用していた施設の近所の人を訪ねてくれるなど、関係が継続している。訪問してくれる園児や、買い物に訪れる近隣の方々との関係を大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に顔の見える距離にいて、お互いで話をされている方も多い。 難聴の方は、職員が間に入り利用者様どうしが関われるように努めている。 個々のできることをしてもらい、協力しながら生活を送ってもらっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退所された方でも、時に面会に行くなどして関係を持ち続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の個々の望むことやしたいことなど、入居時のアセスメント行いご家族からの情報も頂き少しでも意向に近い生活ができるよう努めている。	入居後1ヶ月間はケアマネージャーが密接に関わり、入居拒否や帰宅願望のある方も落ち着いた生活を送っている。入居者に合わせて、タオルたたみ、食器拭き、洗濯もの干しを実施している。ホワイトデーでは男性入居者が女性入居者へ菓子を配ったりと微笑ましい光景があった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報シートの記入を依頼し、これまでの生活や馴染みの生活を知り関わることにしている。 日常の会話の中から、今迄の暮らしを聴かせてもらっている。 これまでの生活環境に近づけることがあれば、支援する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもできないわけではない。できる時もあることを念頭に置き、状態に応じて、利用者様の有する力を発揮してもらい、見守り介護を心掛けている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、個々の目標についてのケアの内容を確認し、評価している。 家族には、面会時に現状の報告と要望を聞きケアにつなげるようカンファレンスで、職員と話し合い利用者様にとって快適に暮らせるよう努めている。	入居者の課題や目標を職員全員で話し合い、現状に沿った介護計画を作成し、日々のケアが提供されている。時には家族の参加協力を得ながら入浴を支援するなど、家族と話し合いながら、計画変更などが実施がなされている。	

福岡県 福の里 グループホーム結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、支援経過に記録し朝礼・終礼で申し送り職員に周知している。 個々の現状を持ち寄りカンファレンスで話し合い介護計画の見直しの参考にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族の関係や状況を把握し、その時に必要な支援を行えるよう、観察と情報を集め、対応できるよう努めている。 ショートステイの方は、自宅の生活に近い状態で、生活ができるよう考慮し利用していただいている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園のイベントに参加することや、毎月の慰問で楽しい時間を共有している。 地域の行事に参加し、近所の方と関わりを持っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の説明を行う。 利用者様とご家族の希望される医院・病院に継続してかかってもらう。 定期的に通診している。 状態によって、適切な医療機関を受診している。	定期的なかかりつけ医受診は職員が同伴している。他科受診は家族同伴で受診してもらい、訪問歯科等は必要時に利用している。受診後は必ず結果を家族と話し合っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気になることを相談し、その状況に必要な医療が、受けられるよう支援している。 状態の変化を早期に発見し状態に応じて受診をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、日常生活の情報を病院に伝え、利用者様を知ってもらい、早期の退院をお願いしている。 又、入院中も状態を把握するため、SWと面談し情報を聞く為、訪問している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りや終末期のことを事前に聞いて把握はしているが、その時期が来たらその都度、状態の変化に合わせ、ご家族に相談の上、地域医療と共に支援していく。	入居時、食事や水分摂取ができなくなった時の対応を、家族と話し合っている。今までに看取りの経験はない。現在はかかりつけ医の往診体制や訪問看護事業所との緊密な連携がないので、看取りの体制ができていない。	入居者や家族の想いに沿った看取り体制の取り組みについて、かかりつけ医、訪問看護事業所等と話し合いを持たれることを期待します。

福岡県 福の里 グループホーム結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に、焦らないようマニュアルを作成している。 時に、救急搬送の手順をロールプレイングで訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時などに、館内放送ができるように、全職員が放送している。 年に2回、避難訓練と消火訓練を行っている。 それ以外に、消火訓練などロールプレイングにて、身体で覚えるよう研修している。	地域消防署の協力で災害対策訓練を実施したり、月に1回～2回、緊急避難を想定したロールプレイングを実施している。消火器の使用、避難経路の確認など、毎回気づきがあり役立っている。	夜間緊急連絡網の整備をお願いします。培った地域との関りから、避難した入居者の見守りなどに地域住民の理解や協力をお願いされてはいいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今の利用者様の心理状況を把握し、気持ちを理解し会話するように、心がけている。 言葉選びや声のトーンにも気配りしている。 利用者様の性格や大切にしていることを、重視し尊重している。	入居者と職員との人間関係や、入居者のその時の気分を理解した声かけを心掛けている。 入居者に関わろうとする気持ちを持って、声かけをする事を職員間で共有している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中で、利用者様の思いや希望を聞き取りできることは、実行していく。 二者択一で、質問し答え易く選択できるように、声掛けしている。 職員のペースに巻き込まないよう、利用様のペースを大切に、観察・声掛けを行う。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にしたいことがあれば、希望に添えることは直ぐに対応している。 歩行できる方は、屋内を自由に歩いてもらい安全の見守りをしている。 一日を、笑顔で、終えるよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は、外出の時に、好きな洋服を選んでもらう。以前、良く選んで着ていた洋服を着てもらっている。毎月、理美容に来てもらい、カットや整髪してもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の匂いやメニューを五感で感じてもらい食事が、待ち遠しく、楽しみとなるようにしている。 食前は、誤嚥しないようお茶を飲んでもらい、口腔体操を行っている。 食べたいものをお聞きし、メニューに組み込めるよう勧めている。	咀嚼や嚥下などの能力や好みで、おかゆ、キザミ食、普通食などを揃えている。ゆっくりと1時間以上かけて食事をする入居者もある。献立メニューは職員が考え、入居者の好みを聞き出すようにしている。2～3人でテーブルを囲み、職員も同じ食事を摂り、和やかな雰囲気ですり食事介助がなされている。	

福岡県 福の里 グループホーム結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量のチェックと把握は、毎日行い不足しているときは申し送り、食べれるよう飲めるよう心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア行い、不潔にならないよう努めている。 義歯の洗浄も、定期的に行っている。 必要に応じて、歯科往診も依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のトイレのタイミングを把握し、時間置きに、トイレ誘導を行い汚染を少なく、トイレでの排泄ができるよう支援している。立位が困難な方でも、二人介助を行いトイレ誘導をしている。その方の状態に応じたパットやオムツを使用する様にしている。	オムツ使用で退院してきた入居者が、トイレ誘導でトレーニングパンツを使用するまでになっている。夏場には、紙パンツから布パンツへの移行に取り組む予定の入居者も居る。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分を促し、便秘しないよう働きかけている。腹部マッサージを行い、自然排便を促している。個々の排便の状況を把握し、不快な状態が続かないよう心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方は、毎日のように声をかけ機嫌よく入浴できるときに入っていたり。	毎日入浴できる準備はしているが、1日毎の入浴を支援している。入浴拒否のある入居者は、気分やタイミングを見計らい、言葉かけを工夫したり、家族にも協力をお願いして、入浴できるよう援助している。浴槽に入れない入居者には、ミスト浴を利用してもらうなどの配慮がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況(年齢や体調)に合わせ、昼に横になる時間を作り、休息してもらっている。 入眠の強要や消灯など決めず、その日その時に応じて、対応し眠れない時は、会話やテレビなど観て、心地よく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書きを、ファイルし直ぐに見れるようにしている。病状の変化で追加の処方があるときには、連絡ノートなどで申し送り周知している。医師・薬剤師と情報共有し、薬の調整を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から情報をいただける方は、情報シートを記入してもらい把握する。 利用者様から嗜好を聞き取り、楽しんでできることや気分転換になることを、実行できるよう努めている。		

福岡県 福の里 グループホーム結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換になるようドライブや季節を感じられるようぶどう狩り・運動会などに出かけている。 日常では、天気の良い日は、屋外でおやつや昼食を提供し、いつもと違う気分で過ごせる時間を作っている。	毎日の施設内散歩が日課になっている。車椅子利用者が約半数だが、年間計画で花見や買い物、外食などで外出の支援をしている。天気の良い日には、ホームの周辺を散歩し、花見の季節には屋外での飲食を実施するなど、入居者の自由な生活の場の設定に心がけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、紛失や物とられなどあり困難な状態ですが、外出時など買いたいものや必要な物の購入は、支援できるようにしている。お金を所持することで安心される方は、本人と御家族の承諾の上で持ってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば連絡をとり会話出来る方は介助している。難聴の方は、要望があった時に電話代行している。年賀状の作成の支援や担当者が一人一人の様子を手紙に書き毎月郵送している。(福の里便り)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除と、午前・午後と換気を行っている。 居室は、毎日除菌と空気清浄機にて感染予防している。天気の良い日は、天井の窓から自然の光を入れている。散歩のときに、季節の花を摘んで生けている。季節感が感じられるように、季節のポスターなどを貼っている。	午前と午後、館内放送をして窓を開けて換気している。2ユニットの間に天窓付きの居間があり共有で利用している。トイレは車椅子でも介助し易いスペースで防臭に配慮され、浴室は入浴前に充分温められるなど、空調を管理している。入居者は共有場所の座りなれたソファで寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが沢山あり、好きなところで好きな方と座り会話できる空間づくりをしている。利用者様同士の関係も大切に、会話が弾むようさりげなく支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具を持って来られたり、仏壇なども持って来られている。 居室が安心できる居場所になるよう、工夫している。	入り口ドアには、それぞれ工夫を凝らした名札が掛けられ、居室毎に空気清浄機を稼働している。衣類等は担当職員が整理整頓し、使い慣れた筆筒や仏壇も置かれた室内は、入居者の移動を妨げないように整理されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のレベルに合わせ一人で行えることは、見守りながら安全を確保し、自由に生活できるように支援している。		